

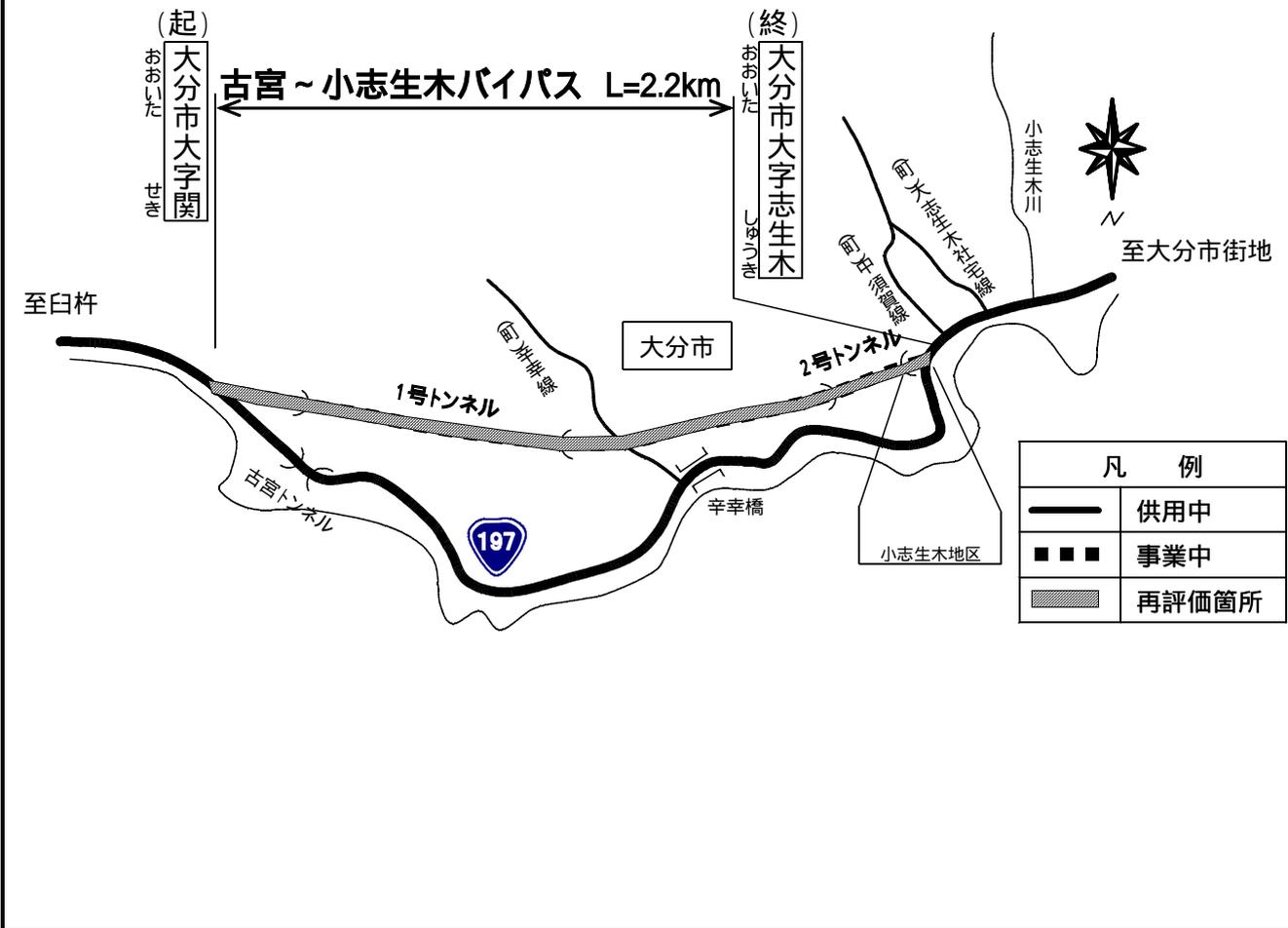
再評価結果（平成17年度 事業継続 箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業名	一般国道197号 古宮～小志生木バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	大分県
起終点	自：大分市大字関 至：大分市大字志生木			延長	2.2 km	
事業概要	<p>一般国道197号は、高知県高知市を起点とし、大分県大分市に至る延長約19.6 kmの幹線道路である。古宮～小志生木バイパスは、大分市関から志生木間の線形不良箇所を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とした、延長2.2 kmの2車線道路である。平成7年度に事業着手し、平成15年度までに用地買収及び改良工事を推進した。平成16年度は小志生木地区の用地買収及び古宮第1トンネル工事を推進している。</p>					
H7年度事業化	H8年度用地着手		H15年度工事着手			
全体事業費	66億円	事業進捗率	28%	供用済延長	0 km	
計画交通量	11,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.7 (残事業) 3.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 30/65 億円 (事業費：28/63 億円) (維持管理費：2/2 億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 111/111 億円 (走行時間短縮便益：101/101 億円) (走行費用減少便益：8/8 億円) (交通事故減少便益：1/1 億円)	基準年	平成16年	
感度分析の結果	<p>残事業（事業全体）について感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.1(1.9)(交通量+10%) B/C=3.3(1.5)(交通量-10%) 事業費変動：B/C=3.4(1.5)(事業費+10%) B/C=4.1(1.9)(事業費-10%)</p>					
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上 現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する 					他7項目に該当
関係する地方公共団体等の意見	特になし					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>愛媛県への国道九四フェリーが近接しており、近年、利用者も増え便数も増加している。また、合併により大分市となった旧佐賀関町と大分市街地を結ぶ唯一の路線である。</p>					
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>平成15年度末の用地進捗率は80%を超え、改良工事についても、平成15年度より古宮第一トンネルに着工しており、全体延長L=2.2 kmのうち、平成18年度には第一トンネル部を含むL=1.3 kmを部分供用予定である。</p>					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<p>用地交渉の難航から事業進捗が遅れていたが、平成15年度よりトンネル工事に着手し、順調に進んでいる。</p>					
施設の構造や工法の変更等	<p>バイパスルートのトンネルにすることにより、海岸線の埋め立てを行わないこと、切土法面を少なくしていること、発生した法面には緑化を施すこと等から、自然環境に与える影響を少なくしている。</p>					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	<p>以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。</p>					

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。